

夏のボランティア体験 ～ふれあいセンターもも～

エコについて楽しく学びましょう!!

ペットボトルのキャップの仕分けや、ペットボトルを再利用した「こだからベンケイ草」の苗の植え付け体験を行います。体験を通して、エコの大切さを学び、未来への環境づくりを考えましょう！夏休みの宿題にもピッタリ!!

📅 8月5日（金）午後1時～3時30分

📍 大阪府中央区社会福祉協議会
（中央区上本町西2-5-26）
ふれあいセンターもも 3階 多目的室

👥 参加対象 小学校4～6年生

👤 講師 中央区フィランソロピー懇談会（CFK）
代表 石黒 修 氏

👤 定員 20名（申込み先着順）

📅 締め切り 8月1日（月）

📞 申込み 電話にてお申し込みください



地球温暖化…って
みんな知ってるかな…



● ペットボトルのキャップを集め、リサイクル業者に売却し、そのお金で世界の子どもたちにワクチンをおくるんだよ。



CFK出前講座

- **ペットボトルを再利用して植木鉢作り**
- **エコキャップの仕分け活動**

● 8月5日、ふれあいセンターももの「夏のボランティア活動」の体験で、CFK 出前講座メニューから、エコキャップの仕分けやペットボトルを再利用して植木鉢を作り、コダカラベンケイソウの苗を植える体験を通じて、エコキャップ回収運動のことや、リサイクル、CO2削減、緑の大切さなどいろいろな勉強をしました。



●コダカラベンケイソウ

ペットボトルで
植木鉢を作って
「コダカラベンケイソウ」を
植えたんだよ。



普通のカーテンと どうちがうの？

- 植物に水やりをすると、まず土が水を蓄えます。上に蒸らされた水を根が吸い上げ、葉っぱにも水分を行き渡らせます。
- 葉っぱはお日様に当たって蒸らして暑いときは、根っこから水をしっかりと吸って呼吸と（人が汗をかいたのと同じようなもの）水分を含んだ葉っぱの表面は、水分を空気に蒸発する時に周りの熱を奪います。
- これを、葉っぱの蒸散作用（じょうさんさうよう）といいます。

緑のカーテンって生きているカーテン！

- 涼しくしてよし！ 体にも地球にもよし！
- 緑のカーテンは 二酸化炭素を吸ってくれるんだよ。植物は太陽の光をかりて、空気中の二酸化炭素と根から吸収した水を使って、自分で糖分を作り、酸素をはき出します。このはたらきを光合成といいます。特別な力で、植物は生産者（せいさんしゃ）といわれています。

光合成のしくみ

植物の根は、土の中の水分を吸って、葉の気孔から蒸散作用で蒸らして、葉の表面を冷やします。蒸散作用は、葉の表面を冷やして、葉の温度を下げ、葉の温度が下がると、葉の気孔が閉じます。蒸散作用は、葉の表面を冷やして、葉の温度を下げ、葉の温度が下がると、葉の気孔が閉じます。



● **キャップの正しい分別方法** を教えてもらい、みんなで分別作業をしたよ。めっちゃ楽しかった。

● 「みどりのカーテン」って、葉っぱの蒸散作用 で涼しくなるんだって。
● 地球温暖化だとか、リサイクルとか、光合成とか…いっぱい勉強したよ。

CFK：中央区フィランソロピー懇談とは… ■地域社会に根ざした企業の社会貢献活動について考えることを目的に、平成11年6月に中央区内に事業所のある会社数社が集り活動を始めました。■単なる情報交換会に終わることなく、地域密着型の活動について考え、幅広く活動を展開しています。